

## 【南湖のジュンサイ復活に向けて】 -今、私たちができること-

(日本大学工学部土木工学科 教授 長林 久夫)

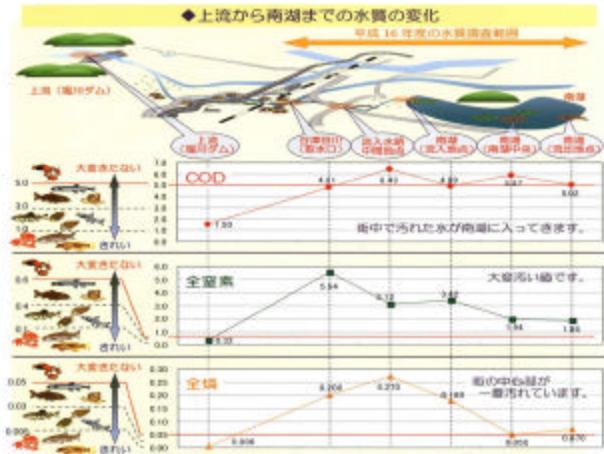
### ジュンサイの復活条件

- <水質>  
富栄養化されていない「腐植栄養型」を好む。
- <水温>  
10から25が育成の適温、15以上で生育が旺盛。
- <植え方>  
用土は有機質に富んだ粘土土壤が良い。
- <管理>  
水が濁水になると枯れる場合がある。



### 水生植物と水質

#### <上流から南湖までの水質の変化>



### 今、私たちができること

#### <るべき姿とは>



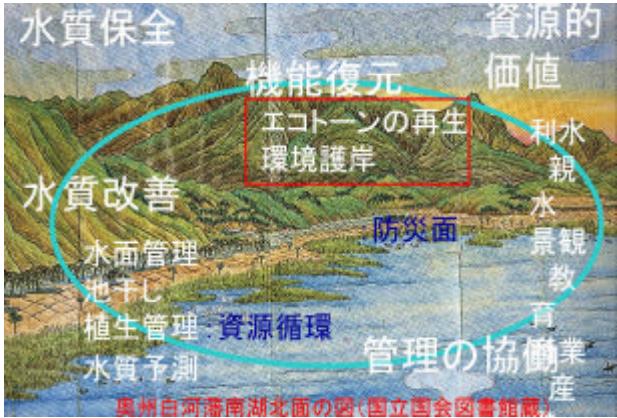
#### <南湖の水質改善に向けて>

- 流入負荷削減対策。
- 流入区間における自然浄化機能の増大。
- 湿原や葦原による汚濁物質の沈降、吸収による負荷削減。
- 流入部のエコトーン(緩斜面)復元による汚濁物質の補足効果の増大。
- 水生植物(ヒシ、コカナダモなど)の計画的な管理による植物の栄養塩類摂取量の増大。
- エコトーン(緩斜面)や水質改善を促す水量管理。
- 環境変容に対応する機能的なPDCAサイクルの構築。

#### <南湖の湖内における主な水生植物>



#### <南湖の水環境を考える>



## 【南湖公園ワークショップの取り組み】 -楽翁公のこころを未来へ！-

(福島県県南建設事務所企画調査課 主査 高橋 正人)

### 南湖の様々な役割と管理者

- 農業用ため池 (社川沿岸土地改良区)
- 国指定文化財 (白河市教育委員会)
- 都市公園 (白河市都市計画課)
- 県立自然公園 (県南地方振興局)
- 1級河川南湖 (県南建設事務所)

(赤文字は主要な利用目的)

### 南湖が抱えている主な課題

- 周辺の都市化による水質の悪化。
- 高層ビルなどの立地による景観の悪化。
- 松食い虫被害や老木化による松枯れ。
- 車の排気ガス等による環境の悪化。
- コカナダモなどの外来種の増加。
- 観光客の減少。



那須連山を借景とした美しい景観の中に高層ビルなどの人工物が入ってきます。

### 南湖公園ワークショップのキーワード

- 『継続』 --> みんなができることを継続する！  
(一度、悪化させた環境を元に戻すには、長い年月と地道な努力が必要。)
- 『連携』 --> みんなが力を合わせてやる！  
(一人一人がバラバラに活動するのではなく連携して取り組むことが重要。)
- 『感謝』 --> 「おもてなし」と「おもいやり」の心で！  
(みんなが感謝の気持ちを持つことが必要。)

### ワークショップにおける質問などをまとめてみました。

#### 質問

Q1 ヨシ原に戻すことが本当に良いのか？

Q2 スイレンとジュンサイのかかわりについて？

Q3 ヨシを植えることで水質浄化が見込めるのか？また、ほかの浄化方法はあるのか？

#### 長林教授の回答

A1 水質改善の面でもヨシ原を通過させるような風情を残しつつ、昔の状況に少し立ち返って、そこで水質の浄化などを考えるのも良いと思う。

A2 温度とかの適性条件が違うのではないかと思う。昔は、ジュンサイだけではなくスイレンも生息していたのではないかと思う。

A3 かなり難しいと思われる。  
ヨシを植えることでの流入水の水質浄化は、それほど効果はない。他の浄化方法は、自然のサイクルも考慮しなければならない。また、人間がどこまで手を加えていいのかが問題かと思う。地元の皆さんのが、今後どのようにして活動していくかによると思う。

南湖は市民の力を必要としています。  
南湖を中心として循環型社会形成・  
環境保全モデル特区へ。